

委員会行政視察報告書

委員会名	総務文教常任委員会
出席委員等	(出席) 成田政彦 委員長、河部 優 副委員長、大森和夫、井原正太郎、谷 外嗣、 北出寧啓、南 良徳 (欠席) なし 【随行】大場幸一、塩谷周平
実施年月日	平成 22 年 8 月 23 日(月)～24 日(火)
視 察 先	8 月 23 日(月) 山口県岩国市 8 月 24 日(火) 山口県柳井市
視 察 項 目	岩国市 1. 議会改革について 2. 山村留学制度について 柳井市 1. 学校施設の耐震化について 普通教室棟のリースによる整備について 2. 地域の景観に調和した学校施設について 柳井市立柳井小学校について
視 察 結 果	
別紙のとおり	
上記のとおり報告致します。なお、資料等については、別添のとおりです。	
平成 22 年 8 月 25 日 総務文教常任委員会 委員長 成 田 政 彦	

総務文教常任委員会行政視察報告書

実施日

平成 22 年 8 月 23 日（月）～24（火）

視察場所及び視察項目

山口県岩国市

- 1．議会改革について
- 2．山村留学制度について 本郷山村留学センター

山口県柳井市

- 1．学校施設の耐震化について 普通教室棟のリースによる整備について
- 2．地域の景観に調和した学校施設について 柳井市立柳井小学校について

出席委員等

成田政彦 委員長、河部 優 副委員長、大森和夫、井原正太郎、谷 外嗣、北出寧啓、
南 良徳
大場幸一、塩谷周平（随員・議会事務局）

視察の概要

山口県岩国市

岩国市到着後、岩国市議会のバスにて、岩国市本郷山村留学センターへ移動。

岩国市議会議事課長 木原 宏 氏の歓迎の挨拶ののち、岩国市議会の概要及び市議会改革について（議会議員の定数）経過の説明がありました。説明後、岩国市本郷山村留学センター長 佐古三代治 氏及び、岩国市教育委員会教育政策課長 高田昭彦 氏から本郷山村留学センターの設立の経過、施設の概要などについて説明がありました。

説明後の質疑応答では、委員から、児童の内訳や施設に来る理由についての問いに、小学校低学年では主に親の意向によるものが多く、中学年では、半数が自分の意思で選択しており、高学年となるとほとんどが自分の意思で留学を希望しているとのことでした。

また、他市の生徒を受け入れることの抵抗などはないか、との問いに、本郷留学センターについては、岩国市に合併前の本郷町より事業を行っており、長年にわたる事業の目的などが住民に理解され、地域全体で児童を受け入れることに抵抗などはないとのことでした。

事業の運営にあたっての国、県、市の補助はどれくらいか、との問いに、本事業については、年間 1,700 万円程度の経費がかかっているが、国、県からの補助はなく、市単独事業で行っている。市からは所長の給与分、約 700 万円が補助されているが、それ以外については、児童（保護者）からの委託費等で運営されているとのことでした。

施設、施策の情報発信や今後の運営にあたっての課題はないか、との問いに、本事業の成果については、賛否あるが、合併後の岩国市においても継続していることを考えると、本事業に対する評価の現われと考えている。保護者から見れば、市直営ということの安心もあるが、施設の運営も厳しい状況にあることから、留学生の確保が課題であり、今後は、本郷での里親制度なども考えていきたいとのことでした。

委託費（留学費用）の年間約 70 万について、決して安い費用ではないと思われるが、市の考えは、との問いに、国、県などは個人の特殊な事情によることとして、個人の事情に対する特定の補助は行わない考えであることから、市単独事業として、児童（保護者）に負担を

求めているとのことでした。

山口県柳井市

柳井市議会事務局長 吉山健一 氏の歓迎のあいさつののち、柳井市教育委員会学校教育課長 弘中靖規 氏から学校施設の耐震化について（普通教室棟のリースによる整備について）説明がありました。

説明後の質疑応答では、今回、リースによる整備の目的は、行革によるものか、または、学校の統廃合が背景にあるのか、との問いに、市内では特に山間部において複式学級があり、複式学級の解消を行うことが目的であるとのことでした。また、将来の統廃合問題を考え、恒久的な施設で整備するよりも、コスト的に低く抑えられることから、普通教室棟に限り、リースによる整備を行ったとのことでした。

地元住民の理解は得られているのか、との問いに、地元住民には、リースによる整備が、統廃合を前提にしたものではないとの説明を行っている。ただし、将来、統廃合問題もありうるが、全国的に見ても、県内で見ても低い耐震化のため、早急に、対応することが必要なことから、費用面も考え、実施することになったとのことでした。また、10年間のリース終了後についても、施設は市に帰属することから、普通教室として、他の施設と比べ、耐用年数も劣ることもないので、活用していくとのことでした。

今回の事業に当たって、業者の選定方法については、との問いに、施設の整備に当たり、短期間で、かつ実績などがあり、すぐれた業者を選ぶ必要があったので、全国規模で募集を行ったとのことでした。また、既存教室については、耐震化が終了後は、利用の予定はないとのことでした。

質疑終了後、柳井市議会のバスにて、伝統的建造物郡保存地区内に隣接する柳井市立小学校の現地視察を行いました。施設については、近隣の景観に調和を考え、昔から引き継がれてきた形態、色彩を考慮して、高さも2階建てに抑えるなど、町並みに調和した施設でした。

総括

2日間の視察の実施にあたっては、厳しい日程にも関わらず、担当職員による説明に対し、各委員から活発な質疑が行われ、全体的に充実した視察であったものと考えており、十分に所期の目的を達成することができたと思っております。

今回の視察により得たこれらの項目を参考に、今後の市政に反映させ、市の発展につなげてゆきたいと思っております。